

編集後記

巻頭言を飾っていただいた杉山所長、佐野所長、金子所長が、共に2005年10月に就任された。また、2005年11月の学内人事異動によって、平尾メディアセンター本部事務長を始め、各地区メディアセンター事務長の多くが同時に一新された。新体制のもと、利用者の皆様には、今後も引き続きメディアセンターをかわらさずご利用くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

2年後の2008年に、慶應義塾は創立150年を迎える。今号から本誌の裏表紙には、創立150年記念ロゴマークを掲載した。メディアセンターにおいても、2008年に向けていくつかの企画を立案し、一部は作業を開始した。乞うご期待を。

今号の新しい試みとして、(1) 標題紙を設けた。(2)「特集「情報ポータル」にあたって」を設け、特集の内容構造を紹介した。特集「情報ポータル」をぜひお楽しみいただきたい。(3)1年の出来事を設けた。従来、『慶應義塾年鑑』には主な業務報告をメディアセンターごとに掲載しているが、本誌では時系列に主な出来事を簡条書きでコンパクトにまとめるように試みた。将来、記録として活用できることを期したい。

本誌は、メディアセンターから慶應義塾大学関係者に対する発信であるが、そこに留まることなく広く他大学図書館などにも寄贈している関係から、図書館界に対する発信でもある。第10号(2003)からは、Webでも発信中。<http://www.lib.keio.ac.jp/publication/medianet/>

本誌は、前誌の前誌である『八角塔』の創刊からすでに40年近くにわたって脈々と継続しており、改めてその歴史の重みを感じた。

本誌が学内外で、より多くの読者の皆様に読んでいただきたいことを願っている。

(村上 篤太郎)